

福井工業大学 学生員 ○柏原 康之

福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

高山市は、歴史都市として良好な景観を有している地方都市の代表的な都市である。また、周囲を山で囲まれ、市中を川が流れていることから、飛騨の小京都とも呼ばれている。そこで観光客を対象に町並み及び小京都らしさについてアンケート調査を行うことにより、高山市における町並みの魅力を把握するものである。

2. 調査方法と内容

調査は平成11年10月16日（土）に、高山市三町の伝統的建築物群保存地区において、観光客を対象にアンケート調査を実施した。調査の設問内容は、個人属性である被験者の性別、年齢、居住地、訪問回数、滞在予定時間、高山市の小京都らしさ及び高山市の町並みの魅力である。また、サンプル数は250票を取得した。

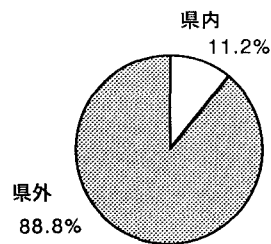
3. 調査結果の分析

(1) 被験者の属性

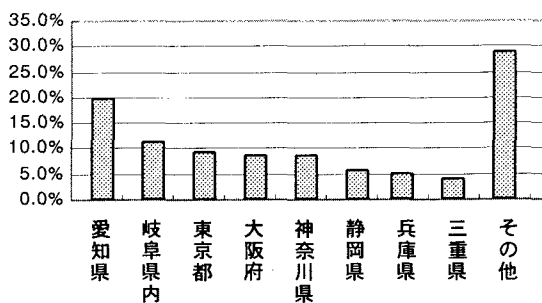
被験者の約9割を県外の人が占めており（図－1 参照）、都道府県別では愛知県が約20％で、続いて岐阜県内（高山市を除く）の約11％、東京都の約9％等である（図－2 参照）。これらのことから、岐阜県内にとどまらず広い範囲から観光客が集まっていることから、高山が魅力ある観光都市といえよう。

(2) 滞在予定時間と訪問回数

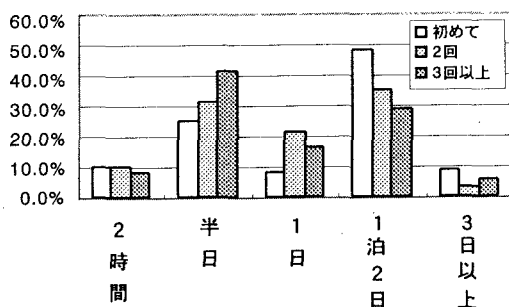
滞在予定時間を「2時間」「半日」「1日」「1泊2日」「3日以上」の5項目、訪問回数を「初めて」「2回目」「3回以上」の3項目として比較してみると、図－3に示すように、「初めて」と答えた人は「1泊2日」が1番高い割合であったが、「3回以上」と答えた人は「半日」が高かった。これらから、「半日」と「1泊2日」では、訪問回数の割合が逆転していることが分かった。



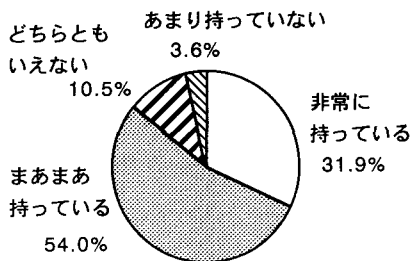
図－1 居住地別構成



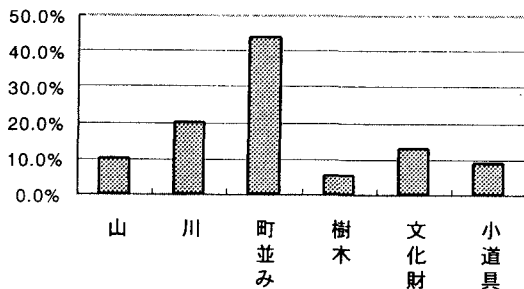
図－2 被験者の居住地



図－3 滞在予定時間と訪問回数



図－４ 小京都らしさの程度

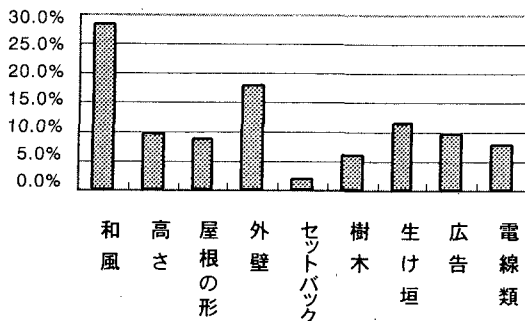


図－５ 順位選択による小京都らしさの割合

(3) 高山市の小京都らしさ

高山市が持っている小京都らしさの程度を調べるために、「非常に持っている」「まあまあ持っている」「どちらともいえない」「あまり持っていない」及び「全く持っていない」の5項目にわけて質問した。

図－４に示すように「非常に持っている」と「まあまあ持っている」の2つで85%を超えており、「全く持っていない」は0%であった。また、高山市が持っている小京都らしさを構成している要素を調べるために、町を囲む「山」、町中を流れる「川」、風情ある



図－６ 町並みの魅力

「町並み」、緑あふれる「樹木」、社寺・旧跡・城址などの「文化財」、石畳・生け垣・道祖神などの「装置・小道具」の6項目を、1位から3位までの順位による回答として質問した。この集計は1番目選択を5ポイント、2番目選択を3ポイント、3番目選択を1ポイントとして順位による重みを持たせた。それぞれの要素の獲得ポイント数を全体ポイント数で除した結果が図－５である。これを見ると、「町並み」が約44%と高く、次いで「川」の約20%と続いている。

これらから、風情ある「町並み」が小京都の魅力形成するうえで大きく貢献していることが分かった。

(4) 高山市の町並みの魅力

観光客からみた町並みの魅力を調べるため、質問項目を「建築物のデザインが和風で統一」「高さが2階建て以下」「屋根の形や素材の統一」「外壁の素材や色の統一」「建築物がセットバックされている」「屋敷内の緑が豊富」「生け垣、板堀、土堀の多用」「広告、看板の色や大きさの制限」「電線類の地下埋設」の9項目として、被験者による選択を3項目までの設問とした。その結果、図－６より「和風」「高さ」「屋根の形」「外壁」といった家屋に関する項目で全体の約64%を占めていることが分かった。

4. まとめ

本研究の被験者は、岐阜県内にとどまらず、全国的に広い範囲にちらばっていると共に、滞在時間も比較的長いことから、高山は魅力にあふれた観光地であるといえよう。また、高山の景観について調査を行った結果、高山の小京都らしさは風情ある「町並み」が大きな要素であることが分かった。これに対し、「樹木」や「装置・小道具」の評価が低いため、今後、町中に緑を増やし、石畳・生け垣などを積極的に取り入れることが望まれる。また、高山の町並みの魅力については、建築物が和風のイメージや外壁など家屋に関する項目が選ばれていることから、これらをより一層保全することが高山の町並みを魅力あるものにするための主な方策と考えられる。